

# 先進的IoTプロジェクト支援事業

## 緊急情報共有システム「Coaido119」による市民及び 民間事業者自律救命モデル社会実装事業

Coaido株式会社

2018年1月31日

# プロジェクトの概要

Coaido119サービスを東京都豊島区において社会実装しその効果を検証する。

- Coaido119とは119番通報をしながら周囲にSOSを発信できる緊急情報共有アプリ。
- 豊島区においてSOS発信者及びSOS受信者の登録を促進し実際の運用を行う。
- 「第三者が救急車より早く現場に到着したか」「AEDが救急車より早く現場に到着したか」などを効果を検証する。
- ビジネスモデル検証の一環として、豊島区の関係部署にヒアリングし区の行政施策との連携を模索する。

従来

「助けて！」が届かない  
救急車の到着を待つしかない



救急車到着まで  
8分36秒 (全国平均)  
10分48秒 (都内平均)

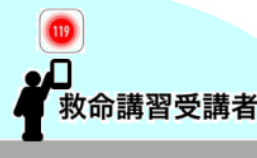


本プロジェクト

近隣のアプリ利用者にSOS発信  
いち早く、現場に駆け付け応急処置！

SOS発信  
(一斉通報)

駆け付け！



医療有資格者  
救命講習受講者  
AED設置者等  
に緊急情報を共有

Coaido119アプリ

# 実施内容

## Coaido119の効果周知と利用促進

- アプリ説明会、訓練、各種イベントでのPR実施
- 広報物を作成し、イベント開催での配布や郵送、ポスティングなどを実施

## 豊島区での効果検証

- 豊島区においてCoaido119を実際に運用し効果検証を実施
  - SOS発信者登録(目標数値:2,590人)
  - SOS受信者登録(目標数値:461人)
  - AEDエリアコール受信施設登録(目標数値:23施設)
  - 救急車より早い救命関連資格保持者の現場到着率(目標数値:20%)
  - 救急車より早いAED現場到着率(目標数値:10%)

## ビジネスモデル検証

- 自治体のニーズ調査、連携に向けた枠組み構築（豊島区、杉並区）
- 民間事業者のニーズ調査、連携に向けた枠組み構築（第一生命、セコムなど）

# プロジェクト成果

KPI項目	目標	実績	評価	備考
SOS発信者登録数	2,590人	939人	3	目標値未達成だが、半年以内には達成予定
SOS受信者登録数	461人	193人	3	目標値未達成だが、半年以内には達成予定
AEDエリアコール受信登録施設数	23施設	27施設	5	目標値達成し、さらに目標値を大きく上回る成果
心肺蘇生のために駆けつけた第三者が救急車より早く現場到着する率	20%	N/A	4	効果検証訓練結果では目標値達成
AEDが救急車より早く現場到着する率	10%	N/A	4	効果検証訓練結果では目標値達成
ニーズ調査に関するヒアリングを実施する豊島区内の部署数	3部署	2部署	3	目標値未達成だが、半年以内には達成予定
サービス利用者数促進に関するヒアリングを実施する他自治体や民間事業者の数	3組織体	5組織体	5	目標値達成し、さらに目標値を大きく上回る成果

# プロジェクト成果

## 効果検証訓練の実施

プロジェクト期間中に対象エリアにおける心停止事案の通報はなかった。実際の事案発生に見立てたシミュレーションを行い効果検証を実施した。

- 実施日時: 2018年1月20日 13時～16時
- 実施場所: 豊島区 南池袋公園周辺
- 被験者: 7名 (いずれも普通救命講習レベル以上の専門知識を有する方)
- 実施内容:
  - ・ 13時から15時までの間、南池袋公園周辺の2箇所にて、場所を伝えずにSOS発信
    - 1回目: マンションの一室
    - 2回目: 屋外の周囲から死角となる場所
  - ・ 被験者には、SOS受信者としてどのような行動を取るかを観察
  - ・ SOS受信者のSOS発信現場への到着までの時間を計測
  - ・ AEDが現場に到着するまでの時間を計測

達成度	評価基準
1	未着手、あるいは目標値の達成困難
2	着手済み、目標値の達成時期不明
3	目標値未達成だが、半年以内には達成予定
4	目標値達成
5	目標値達成し、さらに目標値を大きく上回る成果

	SOS発信1回目	SOS発信2回目	救急車到着時間 (都内平均)
第1SOS受信者 現場到着	2分45秒	7分27秒	10分48秒
第2SOS受信者 現場到着	7分50秒	8分16秒	10分48秒
AED到着	10分33秒	8分25秒	10分48秒

**1回目、2回目ともに救急車到着平均時間より早くSOS受信者、およびAEDがSOS発信現場に到着した。**

# 事業化に向けた課題と展望

## 製品における改善課題と解決への取り組み

- ユーザーのアプリの機能の理解不足 →ユーザーインターフェースの改善
- アプリの利用体験機会が少ない →訓練モードによるSOS受発信体験の促進
- ユーザー密度の向上 →Android版アプリ開発

## 事業プロセスにおける改善課題

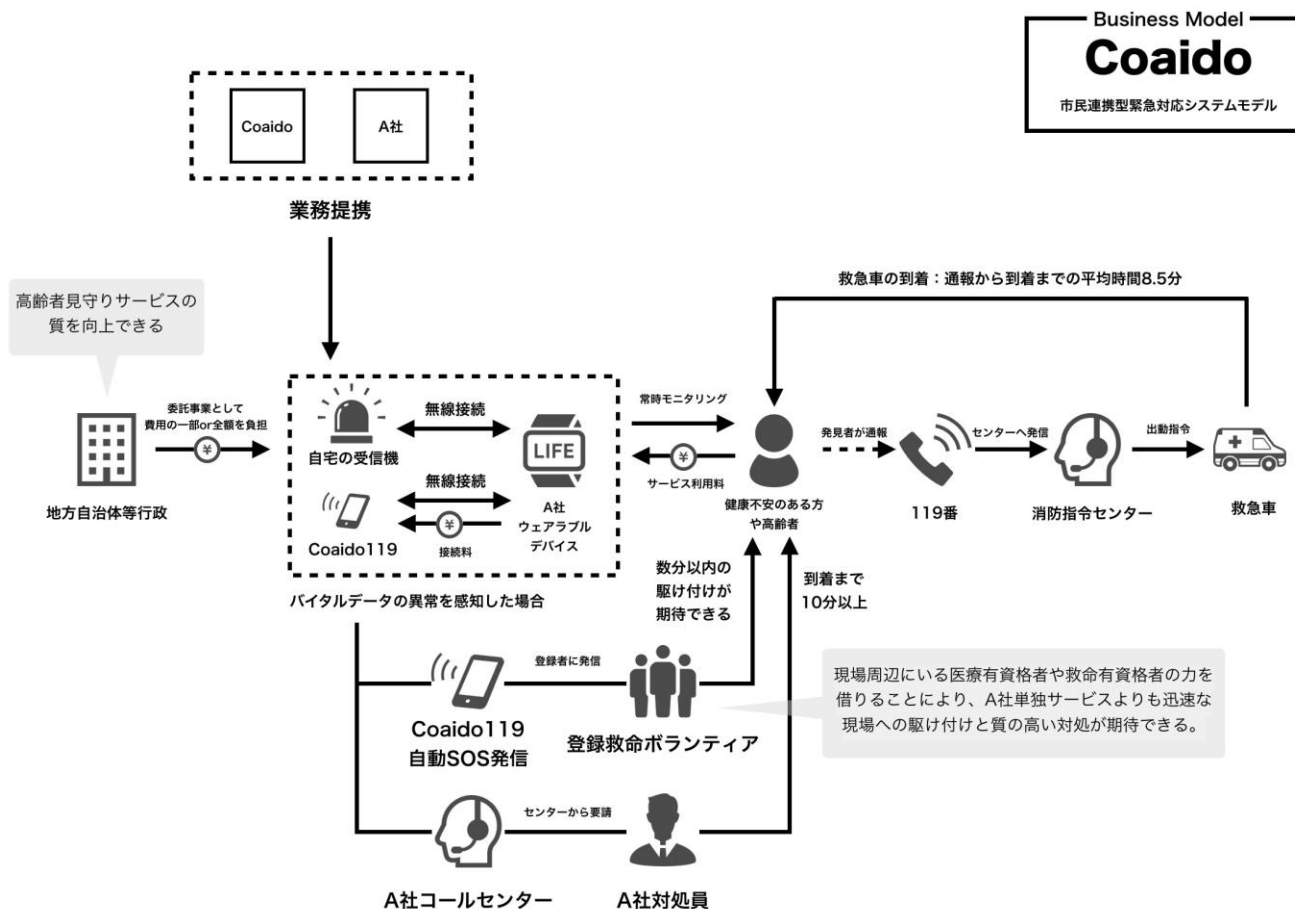
- 認知度が低い社会課題に関するサービスで利用促進が困難であった
  - ⇒平成30年2月に利用エリアを全国に拡大
  - ⇒デザイン性に優れた心肺蘇生訓練キットによる啓発活動
  - ⇒一般社団法人を介した他企業とのコンソーシアムの構築
- 具体的な収益モデルの検討
  - ⇒自治体向けビジネスモデル(後記)において、ウェアラブルデバイスとの連携により、受益者課金を検討
  - ⇒CPRトレーニングボトルプロジェクトにおけるトレーニングキット販売及びキットを使用した救命講習サービスを実施予定
  - ⇒大規模施設内における緊急事象対応システムのパッケージ化に向けた実証実験を予定

# 事業化に向けた課題と展望

## 自治体向け事業化計画

「Coaido119サービス」と連携した緊急対応システムについての検討案

- ・ウェアラブルデバイスと連動
- ・屋外案件に対応
- ・自立支援事業(介護領域)
- ・被災者救助対策(防災領域)
- ・子供や徘徊高齢者の見守り事業(福祉領域)



# 本プロジェクトによるステージアップ

本プロジェクトを実施することで初めて広く実際のユーザーによる利用が開始された。これを契機にアプリの改善や事業化に向けたビジネスモデルの検証が進み、大手企業との協業も具体的に進展している。

